T2K(東大)共同研究プロジェクト利用報告会 2010 地震と津波発生伝播の大規模 3 次元シミュレーション 古村 孝志

東京大学 情報学環 総合防災情報研究センター/地震研究所

① 南海トラフ地震・津波シミュレーション ② 地震と津波の高精度評価 ③ 大規模並列計算に向けた課題



津波と被害

発生年	地震名	Μ	死者数
1896(明29)	明治三陸地震	8.5	21,259
1933 (昭8)	昭和三陸地震	8.1	3,064
1944 (昭19)	東南海地震	7.9	1,223
1946(昭21)	南海地震	8.0	1,443
1960 (昭35)	チリ地震	9.5	142
1983 (昭58)	日本海中部地震	7.7	104
1993 (平5)	北海道南西沖	7.8	230

0 hour 10 min



2010年チリ地震(M8.8)津波 東大地震研佐竹健治教授による



南海トラフ地震による強震動と津波

1707年宝永地震(M8.4)

700 km

今後30年以内の地震発生確率 •南海·東南海·東海地震(M8.0): • 宮城沖地震(M7.5): 99%以上

死者5,038人 102年 40-80%以上 1707年宝永地震(N8.4) Sagami' Trough 1707 Hoei Asta Trough 死者2,658人 147年 1854年安政東海地震(M8.4) 安政南海地震(M8.4) 1854 AM 死者1,251人 死者1,330人 1944年東南海地震(M7.9) 1946年南海地震(M8.0) 90年 923 Kantb Tonan 940

÷.

地震波伝播の大規模並列シミュレーション



1707年宝永地震による強震動(ES2による計算)



地震→津波 連成シミュレーション



1707年宝永地震による津波(ES2による計算)



T2Kによる大規模並列計算

地震動計算の効率(ベクトルvsスカラーCPU)

演算速度

【T2K】小モデルはキャッシュ効果が大きい

チューニング② 計算順序の変更

(注)プログラムが、方程式と直接対応しなくなり、読みにくくなる

	修正前[s]	修正後[s]	性能比
T2K	624.8	536.7	1.16
ES2	7.2	7.2	1.01

隣接通信		修正前[s]	修正後[s]	性能比
▲ ▲ 通信バッファ パック・アンパック	T2K	650.8	624.8	1.04
	ES2	9.7	7.2	1.34

1.04

1.34

チューニング(番外):各社の最適化?コンパイラ

チューニング結果(まとめ) 並列計算効率

チューニング結果(まとめ2) Hybrid vs Pure MPI

大規模地震動シミュレーションにおける演算速度

次世代スパコンによる 大規模地震・津波シミュレーション に向けて

出展:理研次世代スパコン開発本部HP

広帯域、短周期(T<1s)地震動の高精度評価

津波発生伝播シミュレーション: 2004年紀伊半島沖地震(M7.4)

大規模計算と同時Volume可視化

T2Kによる大規模地震津波計算 一まとめと課題一

(1) 地震と津波の高精度予測・災害軽減へ

■ 広帯域(f>5Hz)シミュレーション(計算量は625倍)
 ■ 高精度津波観測に対応する高精度津波計算(300倍)
 ■ 地震、水中音波、地殻変動、津波の連成計算

(2)大規模並列計算の求めるもの

■ 高精度化以上の成果(突然見えてくる世界)
 ■ 次(次)世代スパコンに向けた新たな計算物理の創出

=79.205

F=15.0

